

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
<p>1 実践1 【人権教室】 (第3学年道徳)</p>	<p>水戸地方法務局日立支局人権擁護委員2名による人権教室を行った。アニメ動画「いじめはゼツタイわるい」を鑑賞し、その感想をもとに3年生全員で意見を出し合いながら話し合い活動を行った。動画視聴を前半、後半の2回に分け、児童に考えさせる時間を多く設けるようにした。また、できるだけ、全員が意見を出しやすいように人権擁護委員の方が分かりやすい言葉で質問を繰り返したり、意見が重複しないように担任が、補足の説明を入れたりして話し合いを進めた。</p> <p>成果 「いじめはぜつたいにはしてはいけない。いじめられる友達の気持ちを考えることができた。」「いじめられた時などは、親など身近な人に必ず相談したい。」など、自分の言動を振り返る時間がもてたことを確認できた。</p> <p>課題 今回は学年全体で実施したが、学級毎に実施すればさらに意見が取り上げられたかもしれないので、人権教室の進め方や話し合いのグループ編成等さらによりよい方法を考えていきたい。</p>
<p>2 実践2 【手をつなごう～発見！わたしたちにできること～】 (第4学年総合的な学習の時間)</p>	<p>障害をかかえている方、高齢者の立場や心情に寄り添うための手段として、疑似体験を行った。日立市社会福祉協議会から、福祉教材（アイマスク、妊婦体験セット、車椅子）を借用し、体育館にいくつかのコーナーをつくり、高齢者疑似体験セットを実際に体験した。担任が中心となり授業を行った。</p> <p>成果 「自分にできることは何か。」と疑似体験を通して、障害をかかえている方の不安さを感じ、考えることができた。「障害をかかえている人だけではなく、誰かの手を必要としている人を見かけたら声をかけてみたい。目が見えない人は歩くのが怖いだろうな。」などの意見を多数確認でき、理解し合うことが大切であることを認識することができた。</p> <p>課題 今回の体験は、担任主導で行ったが、実際に障害をかかえている方、高齢者と関わっている社会福祉協議会の方の協力を得て行うことも必要である。また、実際に障害をかかえている方を招いて話を聞くことも考えたが、どこまで学校側の要望を受け入れてもらえるか、どのように児童が応対したらよいのか、意思疎通がどこまでできるのかという不安がある。</p>